

森づくり通信

No.52

2019年(令和元年) 6月 14日(金)発行/金沢森づくりサポートバンク事務局
〒920-1301 金沢市永安町77番地 (金沢市林業振興協議会内)
TEL:076-229-1699 FAX:076-229-1172



藤の花

会員の皆様方には森づくり活動の日程も決まり、活動をすすめていらっしゃると思いますが、今年の5/26日に北海道で39.5度と、とんでもない高温になり街中のふっ切れた温度計の写真を撮る映像がニュースで流れました。

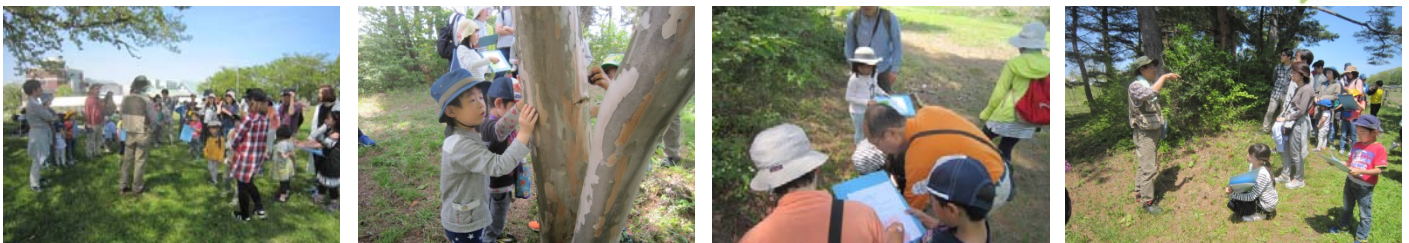
また、キノコにとって大事な5月が高温と雨不足でホダ木に菌が回ってないと専門家も話しており、私たちの森づくり出前講座を行っている不動寺小学校でも木口に菌が回らず白くなっていません。

令和元年 金沢森づくりイベント情報(一般参加可能分)

日程	イベント内容(予定)	場所	問合せ先
8月6・7日(火・水)	こどもあおぞらウッドアート 金沢産の木材で木工作	金沢市俵芸術交流スタジオ	金沢市森林再生課 076-220-2217
9月7日(土)	「金沢テクノの森づくり2019秋」 森林整備活動	金沢テクノパーク	金沢市森林再生課 076-220-2217
9月8日(日)	森の小屋のお祭り 木や森の心地よさを感じるイベント	金沢市医王の里	角間里山みらい 076-229-1131
10月12日(土)	きんしん東原の森づくり 森林整備とレクリエーション	金沢市東原町	きんしん環境財団 076-231-7990
11月2・3日(土・日)	角間里山まつり 里山イベント	金沢大学 角間の里	角間里山みらい 076-229-1131



5/5(日) キゴ山 山開き



キゴ山の山開きイベントに講師として依頼され、ネイチャーゲームのフィールドビンゴを行いました。午前午後で1回ずつの開催でしたが好評の様で、みるみる内に受付に行列ができ定員20名の所1回目は46名になりました。人数多いなーと思いましたが、せっかく申し込んでくれたのでそのままスタートしました。森の中で見つけてほしい自然の物をクイズにして、親子で探してもらいました。途中で親子で相談したり見つけてほしいもの以外にも発見があったり、所々で自然解説を行い触ってもらったり、クロモジの香りを感じてもらったりと、普段自然の中を歩くのと違った雰囲気を楽しむ散策ができました。



森づくり活動 実施報告



元気な森林を守り育てるため、森づくり活動を行っています。

森林は、私たちの暮らしを守り、様々な恵みを与えてくれます。しかし、手入れ不足や放置されることで森林は荒廃が進み、その働きが充分発揮できず森の恵みや生物の多様性も損なわれます。

大切な森林を守り育てるため、一般市民、企業、地元、NPO法人等の協力を得て森づくり活動を行っています。

<問い合わせ先>金沢森づくりサポートバンク事務局 または 金沢市森林再生課 TEL:076-220-2217

4/21 (日) ダンロップの森づくり



ダンロップタイヤ北陸(株)の社員と家族98名が、キゴ山のダンロップの森の整備作業を行いました。



草刈と枯木伐倒木の片づけ、ヤブの整備の3班に分かれ、見違えるようにキレイになりやりがいを感じられる活動になりました。

5/9 (木) 友情の丘森づくり



金沢市校下婦人会連絡協議会の会員の皆さん35名が医王の里の友情の丘の整備を行いました。



草刈、クズ切、ススキの集積作業や前面側溝の泥上げ、古くなった植栽木の支柱の撤去や灌木伐りなど集中して行いました。

5/11 (土) きんしんの森づくり



きんしん職員と家族、一般市民、地元住民の皆さん164名が東原町のきんしんの森の整備を行いました。



親子での参加者は竹でハシを作ったり、竹筒でタケノコご飯を作り、香りいっぱいのタケノコご飯を頂きました。

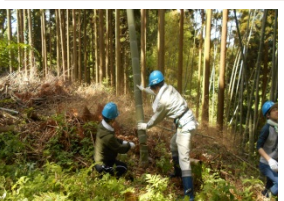
5/11 (土) 子どもマイスターズスクール森林研修



子どもマイスターズスクールの受講生の親子35名が、材料である木がどの様な環境で育てられているかを確認する為、金沢テクノの森で木や森についての説明を受け、間伐伐倒見学や枝払い作業を行い、木のネームプレート作りも行いました。



5/18 (土) テクノの森づくり



金沢テクノパーク内に工場がある企業6社と家族、一般市民82名が参加し、スギ林に侵入した竹切や散策路のササ刈りなどを行い、親子で参加したチームはシイタケの植菌をしてもらい、希望者に2本を上限にお土産にしました。



5/19 (日) 玉家の森づくり



玉家建設と協力会社の社員と家族約100名が、湯涌田子島町の玉家の森で周回路の草刈りや灌木伐りなどを行いました。子どもの参加者は森内のクロモジを採取し、次回の活動時に冷たいクロモジ茶を振舞えるように細かく切り整えました。





森づくり出前講座 実施報告



森づくり活動や森林の講座などに「森づくり専門員」を派遣しています。

森林の役割や森づくりの進め方などについて、森づくり専門員が説明するとともに、森の中での体験学習などを行っています。

例えば小学校の総合学習の時間に森林環境教育や森林の公益的機能についての話や、森づくり活動の際、現地に出向いて技術指導をするなど、様々なテーマでの出前講座を実施しています。

森づくり出前講座の問合せ・申込みは 金沢市 森林再生課 TEL:076-220-2217 までお願いします

4月17日（水）紫錦台中学校出前講座

紫錦台中学校より2年生133名を対象に森の授業を行ってほしいとの依頼を受け、武道館の柔道場でパワーポイントを使い出前講座を行いました。

森林の緑のダム機能により洪水を防ぎ、私たちにミネラル分を含んだおいしい水を提供してくれている事や、世界的な大問題として地球温暖化を防ぐ為にも森林が大きな役割を果たしている事などを中心に話しました。

森がこんなにも自分たちに恩恵を与えてくれるスゴイ存在だと解り、大切にしたいとの感想文を後で頂きました。



5月8日（水）小将町中学校出前講座

小将町中学校と分校1年生70名を対象に森林学習の出前講座を行いました。

小将町中学校では市内で唯一学校林があり、毎年5月の創立記念日に学校林に植栽や森の整備を行っています。その前段として1年生を対象に、森林の働きや恩恵などの授業を行いました。

地球温暖化を防ぐ為にも森を元気にしたいや、今度の学校林植林地作業では、今日学んだことを思い出して一生懸命取り組みたいなどの感想を頂きました。



4月18日（木）内川小学校出前講座

内川小学校3年生8名を対象に森の出前講座を行いました。

事前に里山や森の働きの説明を少し行い、今回はメインでシイタケとナメコの植菌を予定し、植えるシイタケの菌は石川県のブランドで「のとてまり」と同じ菌で、穴水高校で育てたシイタケの競りでは8個11万円の高級シイタケだと伝えたと意欲倍増、やる気満々になりました。

植菌ドリルで穴あけ体験も行い、シイタケとナメコの植菌を行い、原木に菌がまわるように仮伏まで行いました。



5月23日（木）小将町中学校植林地森づくり

金沢市内で唯一学校林を持っている小将町中学校では、創立記念日に合わせて植林地作業を行っています。

全校生徒187名と分校生徒50名は、卯辰山にある学校林まで歩き隣接地の公園で開会式を行いました。

PTAの役員の皆さんも参加し、以前植えた木の周辺の草刈りやツル切、目印テープ付けを行ってからクヌギとコナラの植栽を行いました。

3年生男子30名は別メニューで、ノコギリを使い灌木伐りや伐った木の集積を行いました。



森づくりの話 ②4

前回では間伐のやり方の中で定性的間伐法について述べましたが、今回は定量的間伐法について説明したいと思います。

基本的に、ある林の中で間伐する本数を決め、それに基づいて間伐を行うやり方で、地域ごと樹種ごとに林分密度管理図という表があり、この表はヘクタールあたりの本数と材積とその林の最大密度の指数を基にどれだけの密度がこの林の適正本数かが導き出されるものです。説明をするために書いていますがなんの事か分かりづらいですね。実際現場で使う時にも全体で間伐する本数はわかったが、どの木を残してどの木を伐ればいいのか判断がつきかねるという問題が出てきます。

前号での定性的間伐の所でも述べた通り、どれもこれも一つの尺度で自然に対して完璧なものではなく、ミックスして使う柔軟性がほしい所です。(ところが熟練の技がいる)

島崎洋路さんが信州大学教授時代に提唱した、「保残木マーク法」がなるほどな一と思いました。木を伐る時悪い木を選べと言われても判断に苦しむが、良い木をマークしろと言われてれば誰でも簡単に判断が出来るという考え方で、20年後の樹高を表で類推しその樹高における林の適正本数を割り出すやり方です。これは定性・定量的のミックスした良い間伐法だと思いますが、なかなか進まない間伐は……………。

金沢森づくりサポートバンクのホームページをご覧ください！

「金沢森づくりサポートバンク」

<http://www.kanazawa-forest.com/supportbank/>

森づくりイベントの案内や会員の皆さんの活動の様子を掲載し、道具の貸し出し申請書や会員登録用紙のダウンロードなどもできるサイトとなっています。

また、サイト内には年4回発行の「森づくり通信」も閲覧できるようになっており、団体会員の活動紹介もさせて頂いております。ぜひ1度ご覧ください。



編集後記

「山椒」

「山椒は小粒でピリリと辛い」は、小さいけれど侮れないということわざにあるように、実は小粒でさわやかに辛く、コンブと煮たりちりめんじゃこやつくだ煮、ウナギのかば焼きや焼き鳥にかけたり七味の香辛料、若葉は木の芽としてお吸い物に浮かべ香りを楽しみ、木の枝はすりこぎ、花は料理のつまなどと捨てる場所が無いという具合に利用されています。

北陸ではまだ馴染みが薄い感じですが、ミカン科で温暖な地域で栽培されており近畿を中心に盛んに利用されています。

英語でジャパニーズペッパーと言われ、私たちも山の恵み販路拡大研究会会員12名で、ブドウ山椒の苗を4年前からそれぞれの山に植え、生育状況や収穫量を調べて研究を進めています。今年はややく実が成りはじめ、利用加工の専門家にアドバイスをもらう段取りで進めています。

金沢市森づくり専門員 加藤 八郎

